

2022年6月23日(木)看護情報学特論 I プレゼンテーション

フィンランドの保健教育は なぜ独立したのか？

22MN031 横山歩香 (看護情報学)

保健教育の形態

- 「保健」が独立の教科
例：フィンランドなど
- 「保健体育」と合科された教科
例：日本など
- 「保健体育」を含め関連教科（生物など）の中で
保健の教育内容が実施
例：中国、韓国など

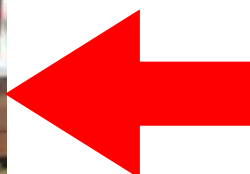
2001年保健科が教科として誕生

看護師が教育大臣になったことが大きな契機

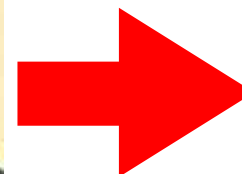
Maija Rask氏

Lasse Kannas氏ら

フィンランドの国民



陳情



理念の
提示



- ・ 看護師出身の教育大臣 (文部科学大臣)
- ・ 保健科の必要性に理解し誕生に尽力

- ・ 保健教育研究の第一人者
- ・ 保健科の確立と発展に尽力した中心人物

- ・ 保健科が学校教育で重要な教科であることを国民に納得してもらうだけの理念が必要

・ Uutiset. (2016). Opetusministeristä omaishoitajaksi – Maija Raskille mökkisiivouskin on meditaatiota [ウェブサイト]. <https://yle.fi/uutiset/3-8857970> (検索日: 2022年6月21日)

・ SPORTICUS. (2013). Uutiset [ウェブサイト]. <http://www.sporticus.fi/lasse-kannas-jatkaa-tiedekunnan-dekaanina-kaudella-2014-2017/> (検索日: 2022年6月21日)

保健科誕生の背景にあった理念

Leena Paakkari.(2012)Widening Horizons.University of Jyvaskyla,pp.16.

「全ての人々が健康や病気、あるいはそれらに関する課題を知ること、あるいはどのようにしたら自分や他の人の健康を保持増進できるか、どのようにしたら病気を防ぎ治療できるかを知ることが『権利』であるから、健康について教えないことは倫理的に疑問の余地がある」

健康は『権利』なんだ



Lasse Kannas氏

義務教育での保健教育の重要性

→保健科を作ることが「健康は権利」という権利の擁護になる。「雨降り保健」と揶揄される日本において、「健康は権利」という認識が浸透し、保健教育の重要性を再認識する必要があるのではないか？



日本の学校保健教育にも求められる視点

Take Home Message

- ☑フィンランドにおける保健科の教科独立には
 - ①看護師が教育大臣になったこと
 - ②「健康は権利」という理念 が背景にあった
- ☑日本においても権利擁護のために義務教育における保健教育の重要性を認識する必要

文献

- ・小浜明.(2016).保健科の「学力」概念の中の「考える力」に関する実証的研究 –フィンランドの保健科教育と大学入学資格試験からの評価論的接近– [博士論文] .https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=99509&file_id=18&file_no=1
- ・張 銘藜.(2021). 中国の「生物」が扱う保健科の教育内容. 仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集 = STUDENT RESEARCH BULLETIN Graduate School Division of Sport Science SENDAI UNIVERSITY, 22, 37-44.
- ・外務省.世界の学校を見てみよう フィンランド共和国 [ウェブサイト] .https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/kuni/finland_1.html (検索日：2022年6月15日)